



日本ルイ・アームストロング協会 ワンダフルワールド通信 No.68



日本ルイ・アームストロング協会（ワンダフルワールド・ジャズ・ファウンデーション=WJF）2011年7月発行
〒279-0011 浦安市美浜 4-7-15 WJF 事務局 TEL047-351-4464 FAX047-355-1004 Email: saints@js9.so-net.ne.jp
ホームページ <http://members3.icom.home.ne.jp/wjf/>
発行人 代表・外山喜雄 編集長・山口義憲 編集・小泉良夫

真っ先に飛び込んできたニューオリンズからの支援 特集！東日本大震災・被災地復興！「愛と連帯の絆」

「3.11東日本大震災」—その直後に発行した会報67号、そして慌ただしく追加発行した号外…外山夫妻とともに奔走したWJFスタッフ、セインツのみなさんのご協力のおかげで、「東日本大震災復興支援」活動は、新聞・雑誌、テレビなど、海外のマスコミにも大きく取り上げられ、その後も着実に善意の輪を広げています。今回の会報68号では、ジャズの故郷ニューオリンズをはじめ、各地から寄せられている「愛と連帯の絆」を中心に、「大震災復興支援特集」としてお届けします。会員の皆様、長年のご協力ありがとうございます！



(1)ニューオリンズからの寄金などで気仙沼市「スウィング・ドルフィンズ」の全楽器が補充された(4/24)＝8～9面に記事
(2)浦安HUBでの支援コンサート(4/22)
(3)宇都宮市での支援コンサート(4/2)
(4)浦賀市「威臨丸フェスティバル」での支援コンサート(5/14)
(義援金はいずれも主催者側指定の支援団体に送られました)

ジャズの故郷ニューオリンズから次々と「恩返し」の愛の手

海を越え、被災地と結ばれた熱い、厚い「ジャズネットワーク」

——WJF と外山夫妻が積み重ねた“支援の歴史”が生きる！

2005年、ニューオリンズを襲った巨大ハリケーン、カトリナ…あれから6年。ニューオリンズにジャズの響きが力強く戻ってきたそのとき、今度は日本が、あのハリケーン被害もミニ災害に見えるような、想像を絶する大災害に襲われてしまいました。死者・行方不明者は約2万3000人(6月末現在)…カトリナの数十倍の惨状、恐ろしい津波の映像、原発の事故…思いがけないことに、ニューオリンズの皆さんが今度は日本支援に立ち上がってくれたのです。しかも、私達が楽器を贈って支援してきたスラムの高校など、決して豊かではない人々が…思いもかけない感動でした。(2～6面＝外山喜雄)

2011年3月11日、午後2時46分！ その時、千葉・浦安市の我が家では…

その日、2011年3月11日、午後2時46分、遙か彼方、東北で地震、震度7…と言うニュースを机の上のテレビで見ながらパソコンで原稿を書いていた。まもなくものすごい揺れ…机の上、パソコンの前のテレビ(まだブラウン管！)が落ちないように、手で押さえてパソコンのふたを慌てて閉めました。家内が恐怖に顔を引きつらせて入ってきて、そのとき、CDを収納したミニCDラックが倒れ、次はやはりCD1000枚ほどぎっしり詰まった大きい棚と、同じ大きさのLPレコードの大棚がゆさゆさと揺れ動き、あれが倒れたら、後の整理が大変だ…とそんなことを焦りながらも考えました。長い時間でしたが、ゆったりといつまでもゆれ続ける部屋を眺め回し、やはりこのゆれ方は埋め立て地だ、と妙に感心していました。不思議なことに、レコード棚は無事でした。また、意外とひっくり返ったものが少なかったのにも驚きました。

でも、緊張と地震の轟音の後の静けさの中から、テレビの音声と共にザッブーン、ザッブーン…と言うような奇妙な音が…まるで波をかき分けて進む船に乗っているように聞こえてきます。すさまじい揺れの中にしばらくいたせいか、目が回ったように、くらくらして、何となく床が傾いているように感じました。そこへ家内の「傾いてる～！」と言う、引き



液状化で隆起・陥没した外山さんちの近くの公園＝4月25日

つった声が…そんな～と、部屋から出るとトイレの便器の中の水がチャップン、チャップン…そして時々ガボガボガボ…と世にも不思議な音を立て続けています。

窓から我が家の裏の家を見てビックリ…まるで柔らかいプディングの上ののっているように、大きな家全体がゆったりと揺れ続けているのです。我が家の揺れが止まってから後、裏の家の揺れは5分ほど続きました。その家の揺れにあわせて、さっきのザッブーン、ザッブーンと言う音が地中から伝わって来ていたのです。揺れが止まって、音もやんできて、ようやく本当にわが家が傾いていることに気がつきました。家の歪みは全くなく、ドアを開けてみると、何事もなかったようにスムーズに開閉、壁にもなんの亀裂も入っていません。もう一度揺れを体験した後の錯覚ではないかと、廊下を歩いてみると、下りは転びそうにスピードが付き、登りはきついのです…。

結局、我が家は数百キロ向こうの地震+埋め立て地…というコンビネーションで、地盤が液状化をおこし、家の奥側が81センチ陥没し、傾いていたのです。その傾きは「1000分の54」…市役所の調査員が液状化の調査をかねてやってきて測った結果、我が家は「全壊家屋指定」となりました。

地震が襲来したとき、書いていた原稿は、67号に掲載した“ジャズにスイングを取り戻そう！ ジャズにはリフォームが必要だ！”…本当にスイングして我が家は、リフォームが必要となりました！

大震災の翌日から飛び込んできた暖かい“救援メール”の山、また山…

地震後の停電が復旧し、テレビの画面に映し出され始めた映像、悲惨な被害…本当にその惨劇には息のみました。信じられない大災害、まさに1000年に一度の大災害が目の前で実際に起きている…夢とも映画を見ているともつかない不思議な感覚…津波の襲った地域の悲惨さに較べたら、全壊とはいえ浦安で被災したことさえ忘れてしまうほどでした。

テレビ、インターネット、フェイスブック、ツイッター…あらゆるメディアを通じて、あっという間に世界中に配信された津波の想像を絶する驚異、そして原発の暴走…日本は小さな島とおもっている人も多い海外の友人達は、私達もあの中にいるのに違いない…と、大震災の次の日から安否確認とお見舞いのメールが入り始めました。その数があまり多くて、返事を出すのが一苦労なほどの数。特に、ニューオリンズの皆さんからの連絡は、暖かいものでした。

「今度は私たちが日本を助ける番です」 地元紙シーラ記者がコラムで呼びかけ

地元新聞タイムス・ペキューンの人気コラムニスト、シーラ・ストラウプさん(写真右＝外山夫妻と)のメールにはこうありました。「今回の日本が受けた大震災に較べたら、ニューオリンズのカトリナは、ミニ災害に見えてくる…本当に日本を心配している…」と。



そして、まもなく、「今度はニューオリンズが日本を助ける番です…あなたたちが永年ニューオリンズの子供達にしてくれたことに、恩返しをするときです！ そう言ってくれる人々の声^がニュー

ーオリンズの中から自然わき上がってきたのです…。思ってもいないことでした。

まずは日本から1万ドルを届けたハリケーン被災の音楽家団体…

一番はじめにそのようなメールが入ったのは、2005年のハリケーン直後、ミュージシャン達が立ち上がり、被災した仲間の家を修理したり、援助をした団体「アラビ・レッキング・クルー」からでした。私達が翌2006年、WJF会員の皆様や全国のジャズファンの皆様から寄せられた1000万円を超える義援金の中から、1万ドル（当時約120万円相当）を届けた（写真右）団体です。そして、私達の協会が、日本のジャズファンの



ニューオリンズ支援のハートを届けてきた多くの人々から、日本を助けよう！ 今度は私達の番だ…という動きが広がっていったのです。

ジャズ・ファウンデーション・オブ・アメリカ、リンカーン・センターのハリケーン救援、プリザベーション・ホールのミュージシャン支援、ニューオリンズジャズ支援団体スイートホーム・ニューオリンズ、有名ライブハウス、ティピティナスの支援プロジェクト、同じくジャズスポット、スナグ・ハーバーが始めたニューオリンズジャズ・センテナリアル、サッチモ・サマーフェスト、地元のミュージシャンズ・ユニオン…こうした団体支援で私達が贈った義援金や多くの楽器に携わった方々、また、1994年から皆様に助けられて続いてきた“銃に代えて楽器を！”の運動で楽器を受け取ったり、日本からのそうした援助に感謝の念を持った方々…。

スラムの高校でバンドを指導する伝説の指導者と呼ばれるウィルバート・ローリンズ先生(写真右上)からは、すぐ電話をくれとの連絡、電話のむこうから、「ヨシオ、今度は私達が助ける番だ、何がしてほしいか言ってくれ！！君たちに世話になった皆で日本支援のコンサートをやるから！」。その高校を卒業してプロバンドになり、私達が援助

していたTBCブラスバンド、日本発“銃に代えて楽器を”の活動にヒントを得て、銃と麻薬をテーマに、スラムの子ども達への音楽教育を始めた団体“ルーツ・オブ・ミュージック”、カーバー高校とオー・ペリー・ウォーカー高校の学校、バンド保護者会、OB会、皆さんに呼びかけて義援金を募り、楽器を贈ってくれるというのです。ちょっと戸惑いもありました。豊かなアメリカとは言え、ニューオリンズの人々は大変貧しい人々も多く、特に学校の楽器備品ときたら非常に粗末な楽器しかない所も多いのです。

また、電話で息を弾ませて、「ヨシオ、今度は私達が楽器を贈るから！ どんな楽器が必要か言ってくれ！！」と言うローリンズ先生…。でも、こちらから楽器を送って…あちらから送ってもらって…??? 膨大な輸送費はかかるし…だったら、こちらから日本の被災地に楽器を送って、あちらの楽器は地元で使ってもらった方が??? …などと、途方に暮れました。

そんな頃、今はやりのフェイスブックで知り合い、でも、面識はなかった在ニューオリンズの日本人女性、真野裕美さんから始めてこんなメールも頂きました。大震災から2週間後、3月23日のことです。「カトリーナ以来、当地の学校に楽器を寄付している、ティピティナス財団が、日本を支援したいと言っています。外山さん達がやっていたことを、今度はニューオリンズからやりたいのです…」。当時はまだ、被災地に食料、ガソリン、水…あらゆるものが危機的に不足していた段階、加えて、太平洋を越えて楽器を送りっこ??? それもどうしたものか??? と途方に暮れました。でも、まもなく、真野さんのご提案のあった支援が、ティピティナス財団の代表、キム・カットナーさんからのメールで、現実のものとして発展を始めるのです。3月26日でした。



「日本がニューオリンズにしてくれたことを、今度は日本に恩返ししたい…もし津波で楽器をなくした子ども達がいたら、連絡をして下さい！ 楽器を教えてくれれば、楽器の形でも、代金を送る形でも対応します。5月2日に予定している、大きな寄付集めのイベントを日本支援として開催します！！」

日本からの長いチャリティーの歴史の恩恵が被災地・東北に…急転直下！

早速、仙台の粋なジャズバー、ジャズ・ミー・ブルースNOLA(NOLAはニューオリンズ、ルイジアナの略です)を経営し、ジャズライブも開催、地元のジャズとニューオリンズ音楽の啓蒙普及に尽くされている佐々木孝夫さん(写真下=外山夫妻と)に連絡を取りました。佐々木さんは、2005年のハリケーン直後、日本ルイ・アームストロング協会の緊急サッチモ祭がNHKニュースで大きく取り上げられたのがきっかけでご連絡を下さり、偶然仙台の玩具コレクターの方から譲り受けた黒人ジャズマン人形を販売してニューオリンズを支援したい…と熱い気持ちを伝えて下さった。以来、ジャズの街仙台を代表する定禅寺ストリート・ジャズ・フェスティバル等で人形を販売、仙台のジャズファンの気持ちを集めてWJFを通じてニューオリンズに送られた義援金は80万円を超えています。

仙台ジャズ・ミー・ブルースNOLA 佐々木さんがまたまたフル回転！

「佐々木さん、ニューオリンズからお返しに被災した子ども達を援助したいと、嬉しい知らせです。子ども達のバンド



で楽器をなくしたりしたバンドがあったら、教えて下さい！」

まもなく連絡が入り、気仙沼で活躍する中高生のジャズバンド、スウィング・ドルフィンズ…多くの児童が津波で家も楽器も流され

避難所に暮らしている。指導者の須藤丈市さんも、家を流され、練習場に使っていた会社の倉庫とともに、保管していた楽器、譜面など全てを流された…と言うことがわかりました。早速、どんな楽器が必要か聞いてもらおうと、サクソ、トランペット、ドラム等17点の楽器が必要とのこと。4月24日には、気仙沼の避難所となっている総合体育館の屋外で定禅寺ストリート・ジャズ主催のコンサートがあり、楽器があれば子ども達も出演して、演奏に参加したいと言っているとのこと。津波以来吹いていない楽器を吹きたい…街の人たちをジャズで元気づけたい…そんな子ども達や先生の熱意が伝わってくる、佐々木さんからの知らせでした。

希望楽器の内、エレキベース、エレキギター、エレキピアノは、私達がストックで持っていた楽器をあて、ドラムは何とか寄付を探すとして、管楽器の値段を探ることにしました。

(株)グローバルが再び破格値で提供 楽器14点、譜面台、郵送料も込みで

1994年、ジャズの故郷の子ども達へ楽器を！の活動がスタートした初年度、九段ライオンズクラブ室橋幸三郎さんのご努力下、“銃に代えて楽器を”に賛同し寄付して頂いた100万円、これを破格の条件で楽器13点にして、ニューオリンズに届けることが出来ました。その時以来、楽器無償修理を含め、この活動に欠くことのない暖かいご支援を頂いている(株)グローバル(新宿区)の福田忠道会長(当時社長)にお願いし、三上則雄副社長、楽器修理学院の植田正之さんのご厚意で見積もりを出して頂き、ティピティナスに連絡を入れました。90万円の寄付はその

支援の輪が大きく広がり、まだまだ続くニューオリンズからの“愛の絆”

ティピティナス財団からドルフィンズへの楽器プレゼントが、太平洋を越え超スピードで実現する中、ニューオリンズでも日本支援の輪が広がっていきました。永年ニューオリンズ学校訪問とWJFと私達の記事を書いてくれる地元紙タイムス・ペキューンのシーラさんは、4月5日に日本を応援しようと言う大きな記事を書いてくれました。タイトルは<ニューオリンズの大切な友人、外山を助けるときだ！>

地元のミュージシャン達が参加 日本支援ライブも企画された！

そうなのです、震災から1ヵ月の4月12日、私達が毎年、日本からの楽器を寄付していたスラム地域にある、G.W.カーバー高校やオー・ペリー・ウォーカー高校のバンド、先生、生徒、そしてバンドの保護者会と学校、同窓会、卒業してプロになったTBCブラスバンド、スラムの音楽教育機関、ルーツ・オブ・ミュージック、地元のミュージシャン達までが参加する、日本支援ライブがニューオリンズで企画されたのです。中心となったのはスラムの高校ブラスバンドの伝説の指導者と呼ばれる、ウィルバート・ローリンズ先生…私たちが2003年初めてカーバー高校に楽器を寄付して以来支援してきた先生。2005年のハリケーン・カトリーナでは家を流され、一番被害の大きかった第9区にあったカーバー高校は廃校になり、先生は一時ヒューストンに避難、病気の父親を抱えもう少しで帰郷をあきらめるところだったと言います。その後、伝説の指導者は、やはりニュー

日のうちに決定になり、しかも、ニューオリンズでの寄付集めのコンサートの予定は5月2日だが、避難所でコンサートがあるなら前倒して寄付を送金しましょうと、4月7日に



決定の連絡が入った。その決定の知らせを知り、私達 WJF も前倒して4月9日にグローバルに送金、グローバルの植田さんも素早く動いてくれて、4月12日に AltoSax × 2, TenorSax × 2, BaritonSax × 2, Trumpet × 4, Trombone × 4の14点の楽器が仙台の佐々木さんお店に到着、送料もグローバルが

負担してくれました！ 佐々木さんの店には、WJF のストックから、近所のクロネコヤマトの担当者の方が、親切に完全梱包して送ってくれた、エレキベースとエレキギター2本とエレキピアノ、そしてグローバルから到着した14点の楽器が山積みとなりました。

さらに、うつのみやジュニアジャズ・オーケストラも、新しいドラムが手に入り、以前使っていたセットを寄付して下さり、子ども達のための学用品の寄付と共に、うつのみやジャズのまち委員会の吉原郷之典さんが仙台の佐々木さんまで届けてくれる…というように、暖かいジャズネットワークの輪が気仙沼に向けて広がっていきました。(15面に記事)

佐々木さんが気仙沼の子ども達に楽器を手渡したのが、4月16日(土)=写真上=、ニューオリンズと日本を繋いで、楽器を寄付したいという話が最初にあって、20日後には子ども達の手には楽器が渡るといふ、この永年ニューオリンズへ楽器を贈って築かれたネットワークが実現した“離れ業”！に、永年ご支援頂いている皆様や今回のご関係の皆様のお陰と、心から感謝の気持ちを新たにします。

オリンズが忘れられず、ジョージ・ルイスが住んでいたの家のすぐ裏、オー・ペリー高校で、名指導者として復活しました。この先生から、大震災のあと3月24日、電話をくれ、と連絡が入りました。

<Thanks for letting me know that you are ok. I'm sorry for what happened and now it's our time to help. Please let me know HOW.....(504)621-8135 Please call me. Wilbert J. Rawlins Jr. >

電話口の向こうで、興奮した先生の声…「大変なことが起こったね、大丈夫かい？ 今度、君たちへのお礼に、日本支援のコンサートをやるから！ 今度は私たちが助ける番だ」。コンサート直前の電話では、「当日、私がステージから読みあげたいんだ。日本からのメッセージを言ってくれ…」。

なんとという感激でしょう。決して豊かではない、スラムに住む人も多い黒人の人たちが、私たちと、日本と日本のジャズファンのために立ち上がってくれたのです！！

地元の人気コラムニストで、ローリンズ先生と私たちの関係を永年にわたって、何度も記事で取り上げてくれていたシーラさんの4月5日付の記事は、4月12日開催のこの日本支援のコンサート、ティピティナス財団のドルフィンズ支援、私がメールで報告した津波の悲惨さと原発の現状を、詳しく取り上げた暖かい、大きな記事でした。

この記事が大きな反響を呼び、ローリンズ先生の企画した12日の支援コンサートの募金箱には、一晩で相当な額の寄付が集まったそうです。この8月、サッチモの旅でオー・ペリー高校を訪れる際、日本の子供達への義援金として、贈呈式が行われます。

日本に打ち返された【シカゴ発＝時事電】あの美貴さんが記者に熱く語る

気仙沼の子供達に楽器をと1000ドル(90万円相当分)を贈ってくれたティピティナス財団。前述のように寄付集めのコンサートは、もともと5月2日開催だったのですが、4月24日にドルフィンズの避難所コンサート出演に間に合うよう前倒しの寄付を送ってくれました。そのティピティナスのコンサートの前日、5月1日再びシーラさんの大きな記事が紙面を飾りニューオリンズに流れました。題して「ニューオリンズは音楽の贈り物で日本にお返しをすることができた！！」。避難所でのドルフィンズのコンサートの様子、どのようにして迅速な善意のリレーが海を越えたか…がつづられていました。

仙台出身、実家は津波で大被害 自らも「カトリナ」で自宅を失う

しかし、驚いたことに、この輪は、その後も、さらに大きく広がっていくのです。

きっかけは、仙台出身の女性でミュージシャンと結婚、ニューオリンズに住みツアー会社を切り盛りしていた2005年、ハリケーン・カトリナで家が水没、その後シカゴに移り、現在シカゴ商工会議所勤務の美貴ローボックさん。彼女は仙台の出身で、自身がカトリナで被災した上に、今回の大震災で宮城・名取市にあったご両親の家が大変な被害を受け、宮城・亘理町にあったお兄様の新築の家は土台を残して全て津波に流されました。

そんな彼女が、シカゴの時事通信の記者、松岡健三氏に、気仙沼の子供達へのジャズの故郷から楽器が贈られ、子供達が避難所コンサートで演奏するニュースを話した事がきっかけで、シカゴ発時事通信というかたちで、WJFの“銃に代えて楽器を！”の活動と今回の恩返しのニュースが、海外から日本中に向けて流れたのです。



外山夫妻と美貴さん親子＝2010年8月、ニューオリンズで

日本レイ・アームストロング協会の活動は、2002年頃、美貴さんがニューオリンズでのコーディネイトをして下さるようになってから、大きく発展を始めました。2003年には、在ニューオリンズ日本総領事館のペリー来航150年イベントに参加、2005年には外務大臣表彰をいただき、坂戸勝総領事(当時)のご厚意で、総領事館で受賞記念パーティーをやっていただく光栄に浴しました。でも、ツアー会社も軌道に乗っていた2005年8月、美貴さんご一家はカトリナで被災してしまったのです。

シカゴ発時事通信のニュースは、特に報道機関の興味を呼びました。4月24日のコンサート当日、気仙沼総合体育館には、NHK、フジテレビ、TBS、テレビ朝日、仙台放送、ミヤギテレビ、グレン・ミラー生誕地協会の会長、青木秀臣さんが社長のテレビ制作会社コスモスペースのテレビカメラなどの放列、新聞社も地元河北新報、朝日、共同通信、読売、日経、毎日、新聞情報社…多くのメディアの皆さんが、ジャズの故郷と気仙沼のジャズとサッチモを通した心の交流、子ども達の天使のようなスウィング、そして涙を流して耳を傾ける被災者の皆さんの映像を、当日のコンサート直後から、次の日、その週に何度も、繰り返し日本中に伝えてくれたのです。翌朝4月25日朝刊、朝日新聞には社会面のすぐ横に写真入りで大きな記事が、全国版で掲載されました。

なんと！駐日アメリカ大使のジョン・ルースさんが何度もニュースをツイート！！

もう一つ思いもかけない出来事も起こりました。アメリカ大使館で在任中WJFの“銃に代えて楽器を！”に深い理解を示して下さった小林賢二さん、そしてかつてサクソ奏者、ベニー・カーターが来日した際、通訳も務められた同大使館の圓子博子さんにお知らせしたニュースを、何とジョン・ルース駐日米大使が注目、大変喜ばれて、このコンサートの前日、ご自身の“大使のツイッター”でツイートしてくれたのです。



Ambassador Roos John V. Roos

ニューオーリンズの財団は、津波で楽器をなくした子供ジャズバンドのために、楽器購入資金を寄付しました。<http://goo.gl/oWfdV>

NBCテレビ、国際交流基金、NHKFM… ヘレン・メリルさん、ジャズジャパンも注目

4月23日付、“ニューオーリンズの財団は、津波で楽器をなくした子供ジャズバンドのために、楽器購入資金を寄付しました”を時事通信記事のリンク付きで…同日のツイッター“日本レイ・アームストロング協会会長の外山喜雄さん(日本の「サッチモ」でもあります)と妻の恵子さんが橋渡し役を務めました”は、ニューオリンズのシーラさんの記事へ

のリンク、28日には“気仙沼のスウィング・ドルフィンズと外山喜雄さん、恵子さんによるジャズ名曲「聖者の行進」の演奏の模様を見てください”と、ドルフィンズと私達、そして仙台のニューオリンズ・プラスバンド、ジャンピング・クロウが共演したユーチューブの映像へのリンクが！！

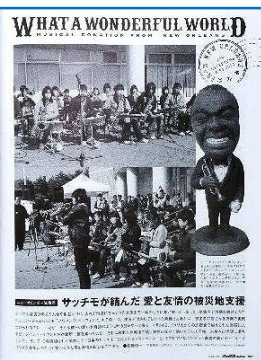
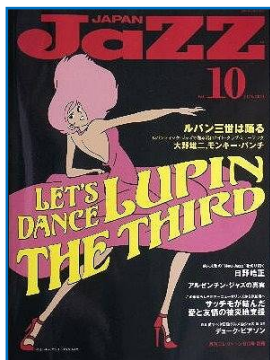
サッチモ・サマーフェスト出演とニューオリンズとの交流をご支援頂いている国際交流基金も、日本語、英語でのニュースリリースを出して下さいました。

この思いもかけない、“アメリカ大使のツイッター”、そして国際交流基金のリリースがきっかけとなったのでしょうか、6月13日には、アメリカNBCテレビがこの話題をとりあげ、このジャズ友情のニュースが世界に発信される結果となりました！！

ニューオリンズから気仙沼へ…のニュースは、不幸で悲惨なニュースの中、各方面でさわやかな話題として多くの方々の心に響いたことは、永年活動してきた協会として、大変うれしいことです。

元スイング・ジャーナル編集長、児山紀芳さんは、NHKFMのジャズ・トゥナイトで5月14日、外山喜雄、恵子をゲストに、この話題をいち早く取り上げて下さいました。

横浜ジャズプロムナードは6月5日、東日本大震災復興応援ライブを開催、モダンからデキシーまで多くの名プレイヤーが出演、出演者への参加を呼びかけるお手紙の中で「音楽を愛する仲間も多くを失いました。その中でもいち早くニューオリンズから気仙沼の小、中学生に楽器が届いたことは、数少ない明るいニュースでした」と、感激を語って下さっています。



NYの名歌手、“ニューヨークのため息”と称された、ヘレン・メリルさん(写真左)は、このニュースをダウンビート誌に配信してくれました。

そして、日本を代表するジャズ誌、ジャズジャパンはナンバー10(2011年6月号)=写真下=で6ページに渡る特集記事“サッチモが結んだ愛と友情の被災地支援”を掲載、トップ記事として、詳細なニュースを伝えてくれています。

また、元ユニバーサル・ミュージックで現在、青野音楽事務所代表の青野浩史さんはメールで、“「ミュージックマガジン」誌の中のアルバムレビューで宮子君というライターが、この震災後の何より印象的だったこととして、外山さんとニューオリンズの交流の中から生まれた楽器の気仙沼への寄贈の話を取り上げておりました”と、ご連絡下さいました。

ボランティア活動を支援している日本フィランソロフィー協会からは、7月5日開催のチャリティー・コンサートで、日本ルー・アームストロング協会の活動を応援して下さいという嬉しい報告を頂きました。

音楽家、久石譲さんが、支援コンサートで被災地の子ども達に楽器を…とよびかけているニュースを始め、子ども達に楽器を贈ろう…楽器をなくした音楽家を支援しよう…そんな動きが広がって来ました。

あれから17年…Horns for guns, Trumpet Not Gun ニューオリンズに根付いたスローガン

永年続けてきたニューオリンズの子供達への楽器プレゼント、そして銃に代えてのメッセージ…17年が経過し、今、ニューオリンズには、Horns for guns, Trumpet Not Guns など、“銃に代えて楽器を！”のスローガンが溢れて、ティピティナス財団の Instrumnts A Comin' のような学校や子供達に楽器を贈る活動が増えています！！日本のジャズファンから、サッチモに託してジャズの故郷へ送ったメッセージが、今、現地に大きな影響を与えていると感じます。そして、この日本の大震災でニューオリンズから頂いた恩返しニュースが、日本の各方面に安らぎと喜びを感じて頂き、なんだかの影響と波紋を広げることが出来たことを、会員、ご協力頂いたご関係者並びにジャズファンの皆様と共に喜びたいと思います。

サッチモ祭もサッポロビールが英断 例年通りの「海の日」に開催が決定

ティピティナス財団がもともと計画していた寄付集めコンサートは5月2日でした。この日は、ニューオリンズ・ジャズ&ヘリテージ祭の最中、丁度この時期、現地へ行くことにしていた日本ルー・アームストロング協会スタッフの渡辺研介さんが、タイミング良くこのコンサートに出席することが出来ました。日本とWJFを代表して大使役を務めた渡辺さんが、特報記事を投稿してくれています(12~14面)。

また、“スウィング・ドルフィンズへ楽器”のニュースは、4月24日の被災所コンサートを企画した定禅寺ストリート・ジャズ・フェスの街、仙台でも大きな反響と感謝の念で迎えられました。5月中旬、ロータリークラブの大会がニューオリンズで開催され、仙台青葉ロータリークラブの大江勝雄さんが、ティピティナス財団の事務局長、キム・カットナーさんを表敬訪問、新聞記事、テレビ映像を贈呈しました。キムさんは、ご自身もカトリナで被災、その思い出がよみがえったのか、演奏する子ども達の映像に涙を流していたということです。

大震災の影響は今年の「サッチモ祭」をも直撃、サッポロビール名取工場が被災、節電などの影響もあって開催

が危ぶまれていましたが、元社長現相談役、岩間辰志さん(会員)も奔走されて、竹林明エビスビール記念館館長のご好意で開催を決断、会場設営、運営を担当するフォンテック・ツリーの八木祥臣さんも全面協力を申し出てくださいました。

ニューオリンズからの支援は、まだ続いています。やはり津波で被災した多賀城の小学生ジャズバンド、ブライトキッズへの支援…再びティピティナス財団から50万円の寄付が届き、またまた仙台の佐々木さんとの連携プレイが始動、6月19日に多賀城東小学校で子ども達への楽器プレゼントが実現しました！！(10~11面)

ニューオリンズからの、嬉しい恩返しはまだ続いています。サッチモも天国でスマイルしてくれていることでしょうか！思いがけない、嬉しいニュースの連続で…家の被災のことは吹き飛ばしてしまっています…。(スマイル)



こうしたジャズの友情をもたらした協力者として、永年楽器の輸送を引き受けて下さった日通と森忠彦さん、岩間さんはじめサッポロビールの関係者の皆様、セインツ、サッチモ祭出演バンドの皆様、会員のみなさま、WJF 理事、スタッフの皆様…まだまだ沢山いらっしゃいます。感謝、感謝！！

デキシーセインツにも大震災余波——「しばらくは“失業状態”でした」 被災やら節電やらでディズニー休園、HUBなど営業自粛が続く

復帰できたのは震災の1ヵ月後 イクスピアリでの演奏も再開！

3. 11東日本大震災で、思わぬ液状化被害を受けた外山

喜雄・恵子夫妻。「支援」どころか自らが被災者になってしまったのだが、デキシーセインツのみなさんにも“余波”が襲った。つまり、どこも被災やら、営業自粛で演奏の場がなくなってしまったこと。「いやあ、しばらくは失業状態ですよ」と外山夫妻。復帰できたのは、震災後1ヵ月も経った4月13日(水)の「HUB 浅草店」(東京・台東区)だった。

特にショックだったのはディズニーランド(千葉・浦安市)。セインツが「ハッピーデキシーシックス」として活躍していたイクスピアリも、被災と節電のため営業中止、休園を余儀なくされた。ここでも失業。復帰はやはり1ヵ月以上経過した4月16日。ディズニーランドがやっと営業を再開できた15日の翌16日(土)。まだ夜間営業は出来ず、午前8時から午後6時までのオープンだった。本格的に夜間の営業も再開されたのは23日(土)。セインツは復帰2回目の出演、その後、外山夫妻、藤崎羊一さんともども宮城・気仙沼へ向かったわけだが…。

そして、この日の夜、光と音楽に包まれたスターたちの夢のパレード「エレクトリカルパレード・ドリームライツ」も23日に再開、テレビニュースを見ていると、なんか涙を流して、ミッキーにすがりついている女の子もいましたね。でもイクスピアリは節電のせいか、ちょっぴり薄暗い感じだった。

このイクスピアリ入り口付近で、毎週土曜日、出演は午後1時、2時半、4時、5時半の4回。私(小泉)が出向いた23日は、レギュラーの粉川忠範さん(tb)に代わって松本耕司さん。あいにくの雨だったが、外山さんの巧みな演技…お猿さんのお人形のシンバルに合わせた演奏、ちっちゃな子供に指揮棒を持たせての演奏、九官鳥の笛…親子連れやギャル、みんなの笑顔がはじけた(写真上中央の2枚)。デキシーってホント楽しいねえ。

HUB 新浦安店でも活動開始 大震災復興支援ライブに出演

セインツは、この前日、22日午後8時からオリエンタルホテル東京ベイ地階の「HUB 新浦安店」で、大震災復興支援ライブに出演。140席はほぼ満杯、

WJF会員さんの姿もかなり見かけましたよ。募金箱も備えられ、その一つを持ったファンを先頭に、セインツが“募金パレ-



ド”。会場に来られていた、このお店などハブの地区担当課長、杉山芳洋さん(写真下の右側)は、石巻の出身。「実家は、すべて津波に流されてしまいました。両親は危うく避難して無事だったんですが…」とか。翌日やはり宮城に向かうと話していた。「HUB 新浦安店」は28日も支援ライブを開催。この日は、ディズニーシーも営業再開にこぎ付けた。

昨年12月、このイクスピアリでの、こんなエピソードも外山喜雄さんに寄せられていた。外山さんの出身校、宇都宮市の星が丘中学校の元校長、いまは泉が丘中学校の校長先生、小谷和弘さんからのお願い。一部を紹介させていただきます。

宇都宮の中学校校長先生から 「娘と孫がまさか外山さんと…」

<先日の12月4日(土)イクスピアリでジャズクリスマスコンサートのときに、3歳にならない小さな男の子が指揮をしたり、お話をしたり、親子と写真を撮ったりということがあったと思います。

実はこの親子は私の娘と来年3月で3歳を迎える孫の創士君でした。日曜日に娘から、土曜日にイクスピアリでクリスマスコンサートを見ていたら、創君(創士、孫の名前)がゲストとして演奏グループの指揮棒を振ったり、話したり、一緒に写真を撮ってくれたりとても楽しかったと写真つきのメールをもらいました。不鮮明な写真ですが、バンジョーを持っている女性の姿にピンときて、一昨年宇都宮市教育委員会で配布された「学校出前ジャズコンサート」の資料を取り出し、みなさまを確認するとともに、ホームページを検索しましたところ、デキシーセインツは12月4日のイクスピアリでコンサートとありました。なんと奇遇なことでしょうか。外山様が星



が丘中学校の卒業生だったこともあり、縁とはこういうことなのかもしれないとつくづく感じ入るとともに、外山様のお人柄に触れた気がした次第です。本当にありがとうございました。

私もびっくりしましたが、娘は私が外山さんに原稿をお願いしたことがあるということ話をしたら、もっとびっくりしていました。娘からも、くれぐれもよろしくお礼を言っておいてくださいとのことでした。

孫の創士君は大変印象深く楽しかったようで、父親が帰ってきてから、こうやってこうやったんだよ得意げに話していたとのことでした。不鮮明ですが、当日の写真(写真上)を1枚添付しました。>

小谷さんは、その年の春、WJF 会員の藤原宏史さん(宇都宮市教育委員長)の紹介で、外山さんに栃木県教職員の機関紙「下野教育」11月号に「大志に生きる」というテーマの執筆をお願いしていた。ほんとうに「縁とはこういうもの」なのですね。セインツのみなさんにもよろしく…とあります。ありがとうございました。



被災の中心地・気仙沼に届いた善意の楽器たちで 「ニューオリンズのみなさんありがとう！」のメッセージと

仙台からの応援バンドも次々と… 外山夫妻、藤崎羊一さんも加わる

前夜の大雨がウソのように晴れ渡り、澄んだ青空に大きな鯉のぼりがたなびく…4月24日(日)、「スウィング・ドルフィンズ」(SD)をメインとするライブ会場となった気仙沼総合体育館。ここ体育館にはまだ720人(同日現在)が避難してきており、周辺には“テント村”や仮設トイレ群も並んでいた。各地からのボランティアの姿も少なくない。車椅子のお年寄りに付き添う介護関係者、「医務室」と張り紙された事務所を出入りする医師、看護師…。そんなみなさんらざっと500人が見守る中、体育館前の「サポート広場」で午後1時、支援ライブがスタートした。

バイオリンも加わった榊原光裕さん(p,arr)=仙台・定禅寺ストリートジャズフェスティバル(JSF)実行委員長=がリーダーの「HAPPY TOCO」など、次々と仙台からの応援バンドが演奏。ニューオリンズスタイルジャズバンド「ジャンピング・クロウ」は、超元気いっぱいの若者たち。そのなかに、外山喜雄(tp,vo)・恵子(bj)夫妻、藤崎羊一(el-b)が加わる。次第に盛り上がっていく中、いよいよ登場！「スウィング・ドルフィンズ」の24人。拍手と声援がわき上がる。ここで司会者から再び外山夫妻の紹介と、ニューオリンズからの「恩返し」の支援が伝えられる。金色にピッカピカに輝く



管楽器14本、それに WJF からのエレキギター、エレキベース、アンプ、宇都宮ジュニアジャズオーケストラからのドラムセット、そしてキーボード(「あら、これ、私が贈ったものよ」と再会を喜ぶ恵子さん)。(株)グローバルから寄贈の譜面台20台も活躍。時々、譜面を台ごと吹き飛ばすような突風が会場を襲う。譜面台を支える支援者のみなさん。

メンバーへ改めて楽器の“贈呈式” お返しは寄せ書きいっぱいの大漁旗

まずは、メンバーの小野寺貴子さん(as,中3)ら2人の代

表に改めて外山夫妻からアルトサックスとトランペットを手渡す“贈呈式”(写真左下)。そのお返しにと贈られた小さな包みは…夫妻が広げると、それは色鮮やかで大きな「大



漁旗」だった。突風を受けてひらめく(写真上)。旗の上部には「ニューオリンズのみなさんありがとう」とあり、子供たちの寄せ書きがいっぱい。会場から大きな拍手と大声援。こんな素敵な「大漁旗」が再びあの美しい気仙沼の海にはためくのは、



いったいいつになるのだろうか？ 続いてメンバーの1人が挨拶に立った。「ニューオリンズを中心とした世界中からの支援を受け、大好きなジャズを演奏できて、私たちはとても幸せを感じています」と。目をしばたかかせて頷く外山夫妻。手話の“同時通訳”も終始、会場に話しかけてくれたのも、感動的でした。

司会の榊原さんの話では、慶応大学から派遣され、この体育館の医務室に勤務している若い医師もライブに賛同。「我々医師は、けがをされた方、病気の被災者のみなさんのマイナスになった部分をゼロに戻すのが仕事です。その後のゼロをプラスにするのはあなた方(音楽)の仕事です」と激励してくれたそうだ。会場にも姿を見せていたね。

(写真と記事の一部は「号外版」と重複します)

「スウィング・ドルフィンズ」が元気に感動のスウィング！

お返しの「大漁旗」に全員が感謝の寄せ書きも添える

**バンドテーマは「ムーン・ノクターン」
涙を誘った「ふるさと」「我は海の子」**

お待たせ！ 須藤丈市さんの指揮で SD の演奏が始ま

んと！ 外山夫妻にサインを求めてバンドの子供たちの長蛇の列が出来る(一番下の写真)。サインに添えて「元気にスウィングして下さい。ニューオリンズに届くように…」とひと

言。「みんなニューオリンズのことにも、関心を持ってくれたようですよ」と夫妻はにっこり。みなさんとの挨拶やら何やら…。こ

この日、佐々木さんを通じてJSF関係にWJFから10万円を寄付。演奏が終わってすでに2時間ほどが経っていた。

<瓦礫に囲まれた気仙沼港を回る>

気仙沼港にも回って惨状を脳裏に焼き付けた。港にたたきつけられ横倒しとなった漁船、黒こげの船体、がれきの中に埋まり、重なり合った車、瓦礫の中の屋根と柱だけ残ったフェリーの栈橋、崩壊した家屋、「宮城県警」と背中に書かれた一団に運び出される布にくるまれた遺体、市民の姿はない、まさにゴーストタウン。道路上の瓦礫を取り除いた以外には、まだまだ全く手が付けられないのだろうか。「がんばれ東北！」などというのが恥ずかしくなる。立ちすくんで誰も声が出ない。こんな惨状が200kmも、300km…いや、青森から千葉まで500km 続いているのか！

SD のトランペッター(中1、12)は、家を流され家族とともに体育館横でのテント暮らしをしているという。でも、「演奏中は避難生活も忘れて、とても楽しかった」。関係者のほとんどの方々が自宅の被害を受けているが、全員無事だったというのが、せめてもの慰めだった。(小泉良夫)

気仙沼ジュニアジャズバンド「スウィング・ドルフィンズ」

1993年(平成5年)、結成。指揮者で会長・須藤丈市さん(52)。学校の週休2日制にともない、小5～中3の子供たちが毎週土曜日、気仙沼市内の総合市民福祉センター「やすらぎ」を中心に練習を重ねてきた。翌94年から仙台の定禅寺ジャズストリートフェスティバルに参加、以来、常連で数ある参加バンドでも人気 No.1。グレン・ミラー楽団との交流もしている。3.11大震災の津波で練習場はもとより、保管していた楽器、譜面、譜面台などを流されてしまった。SD のホームページには、赤いジャケットのユニフォームで華麗に演奏しているステージが紹介されているが…。



る。まずは、バンドテーマ「ムーン・ノクターン」。次いで「オン・グリーン・ドルフィン・ストリート」「ジェリコの戦い」「ウッディ

ー・チョッパーズ・ボール」…。続くSDの卒業生で作る

バンド「ブルーボースターズ」も交えた演奏では「我は海の子」「故郷(ふるさと)」…これには、しきりに涙をぬぐう人たちが目立った。バンドの女の子がマイクで会場に呼びかけたんですよ。「家を流され、気仙沼を離れていく方もいらっしゃると思いますが、どうかこの曲を聴いて“ふるさと気仙沼”を思い出して下さい！」。エンディングは出演者全員による合同演奏「聖者の行進」(写真上の上段)。

「音楽の力って凄いですね。子供たちから本当に元氣をもらいました」(避難生活の男性)。「中3最後の年は、もう楽器を手にすることが出来ないとあきらめていたのに…。すっごく楽しく演奏できました」と、みんなの笑顔がはじける。「あなた方のその笑顔、もうニューオリンズでも有名ですよ」と外山夫妻。午後3時過ぎ、ライブが終了すると、な

ニューオリンズから今度は多賀城へ 小学生ジャズバンド「ブライتكィズ」 ピッカピカのトランペットに大喜び

東北・多賀城の空は底抜けに明るく、青く澄み渡り、子供たちの笑顔と歓声のはじけた。大震災からざっと100日。のどかな初夏の一日…6月19日午前11時、待ちに待った楽器たちが、車で高台にある多賀城東小学校(宮城県多賀城市笠神)に到着した。小学生ジャズバンド「ブライتكィズ」の子供たちが目を輝かせて出迎える…。

ティピティナス財団など支援相次ぐ 楽器会社も次々と協力を申し出る

「まだまだ困っている子供たちが沢山いるんですよ？日本の皆さまからいただいた支援に見合う援助を、私たちも行っていきたいと思っています」

さきに10000ドルの義援金を送ってくれたニューオリンズのティピティナス・ファウンデーション(Tipitina's Foundation=ティピティナス財団)をはじめ、ルーツ・オブ・ミュージック、オー・ペリー・ウォーカー高校、TBCブラスバンドなどから日本レイ・アームストロング協会(WJF)の外山会長夫妻のもとへ、その後も支援の申し出が相次いでいた。さらに被災地からも、先の宮城・気仙沼ジュニア・ジャズ・オーケストラ「スウィング・ドルフィンズ」に次いで、多賀城市内の小学生ジャズバンド「ブライتكィズ」(保護者会会長:二宮裕美子さん)からも、仙台のカフェ・バー「ジャズ・ミー・ブルース nola」オーナー、佐々木孝夫さんのもとに被災楽器補充の要請が届けられていた。

佐々木さんから外山夫妻へ、外山夫妻からニューオリンズへ…このリレーも早く、即刻折り返して楽器購入に必要な50万円相当のドルが振り込まれてきた。今度は榊グローバルの呼びかけで同社に加えて、ローランド(株)、榊神田商会、パール楽器製造(株)も、支援の手を差

し伸べてくれた。集まった楽器は、トランペット、トロンボーン、アルトサクソ、テナーサクソ、ソプラノサクソ(以上ジュピター)、エレキベース(フェンダー)、キーボード(ローランド)、ドラムセット(パール)…の8点。まずは仙台の佐々木さんのもとに集結し、この日、搬送のボランティアを買って出てくれたジャズファン、菅原淳夫さん運転のライトバンで、佐々木さんともども多賀城市に届けられた。

目を輝かせ楽器を抱きしめる子ら 大荷物のドラムセットもやってきた

外山夫妻と私(小泉)、それにテレビ朝日映像(株)の

プロデューサーで WJF 会員の柿崎拓哉さんらテレビクルー一行3人も前夜、我々とともに仙台市内に泊まって柿崎



わー！ 楽器が来た～！ 外山さんを囲んで大喜びの子供たち＝多賀城東小学校前で

さんチャーターのジャンボタクシーで多賀城東小に先着していた。「ブライتكィズ」の子供たち、保護者会副会長の黒石望恵子さんらお母さん方、NHK、テレビ制

作会社コスモスペースのクルー、地元紙・河北新報記者らも楽器たちの到着を待った。車が到着、荷物が降ろされ、待ち切れずに覗き込む子供たちの目の前で、外山さんがトランペットのケースを開ける。まさにピッカピカ！ トランペッ



外山さん、佐々木さんともども笑顔もスイングして…＝多賀城東小学校音楽室で

トは太陽の光を受けてまぶしいほどの金色に輝き、子供たちも、付き添ってきたお母さんたちも思わず目を細める。まるで宝石でも見るようなまなざし。みんな贈られた楽器をしっかりと抱えて、さっそく4階の音楽室へ。

大荷物のドラムセットは、かつてドラムを演奏していたという菅原さんの指導で、ドラム担当の子供が組み立て作業に精を出す。そうそう、この菅原さん、塩釜市の会社に勤めていて津波に襲われ、腰までつかったものの九死に一生を得て港の海上保安庁の庁舎に逃げ込ん



やったー！ 全部揃いましたよ！ 全員集合で「ニューオリンズのみなさんありがとう」=多賀城東小学校音楽室で

だという。バンドの子供たちはみんな終業間際の学校にいて無事だったが、バンドの指導者、星貴彦さん(会社員、30歳)は、お父さんを津波で亡くされている。学校に通じる主要道路も3mもの大津波に襲われた。道端には、いまも瓦礫や青いシートで覆われた家が目立つ。保護者のみなさんもみな無事だったが、家屋の全壊、一部損壊、津波による車の流出、保護者の一時解雇、自宅待機などの被害は枚挙にいとまがない。

「ジャズをみんなで楽しんで…」 ペット少年に外山さんが“直伝”

この4階の音楽室と隣の準備室に置いてあった子供たちの楽器は地震でほとんど棚から落下、一部は破損、卒業コンサートは延期、練習は2カ月ほどお休み…そんな中での楽器のプレゼントだった。この日の楽器贈呈式で菅原優依さん(多賀城東小3年、9歳)と高橋由依さん(城南小5年、10歳)の2人が外山さんに感謝の手紙を読み上げた。



「…ブライتكッズのことを心配して、楽器をプレゼントして下さる、という知らせを聞きました。私はとてもおどろきました。そしてとてもうれしく思いました。…私たちはこの地震でとてもこわい思いをしましたが、また楽器をえんそうできるようになりました。今回送っていただいた楽器は、いつまでも大切に使用させていただきます。まだまだたくさんの方が大変な思いをしていますが、私たちは、えんそうを通して、ジャズをたくさんの人に楽しんでいただけたらうれしいです。今日は本当に、ありがとうございます

ました！！ 部員一同より」(原文のまま、一部省略)と喜びを伝えてくれている。

外山さんがトランペット少年、後藤瑠真君(多賀城東小5年、10歳)に「聖者の行進」の“個人指導”。何かこの子って、外山さんがかつて楽器を贈ってかわいがったニューオリンズのトロンボーン・シヨーティーにそっくり。彼はいまやニュー

ーオリンズでは、トランペットの名手の一人になっている。瑠真君も名手になって欲しい！

「茶色の小瓶」「テキーラ」… さあ、笑顔でスウィングしよう

さて、楽器指導の辻雅子さんらも交えて、それぞれが手にした新しい楽器の音合わせやらも終わった。演奏に入る。さあスウィングしよう！ 子供たちの演奏は、まさに悪夢を吹き飛ばしてくれた。今年、卒業した部員も再会して、計13人が演奏(写真下)。「茶色の小瓶」「テキーラ」「アリス・イン・ワンダーランド」「スウィングしなけりや意味がない」…外山さんも演奏に加わる。ところでバンジョーの恵子夫人は…？ なんと学校の玄関口で転

倒し、“黄金の右腕”を複雑骨折してしまい、病院へ。楽しみにしていた子供たちとの演奏も吹き飛んでしまった。「私の不注意で、本当にごめんなさいね」と、みなさんによろしく言っていましたよ。

小学生ジャズバンド多賀城「ブライتكッズ」

多賀城「ブライتكッズ」は多賀城東小学校の吹奏楽クラブ(部)がはじまり。人数の減少とともにジャズバンドになった。数年前から学校から離れた保護者会運営のジャズバンドとして、多賀城東小学校吹奏楽部ブライتكッズと名乗り活動してきた。当初は、東小学校児童だけだったこと、コンクール出場が学校単位であったことから、バンドに学校名を付けていたが、部員数がさらに減少、多賀城東小学校の児童だけでは活動が厳しいこともあって、昨年度から部員の募集を多賀城市内のすべての小学生に門戸を広げた。市内の3校の児童が加わって活動を続けている。現在の他の小学校には吹奏楽部は、まだないようだ。練習は毎週土日。



Jazz & Heritage Festival を見物 旬のザリガニを楽しむお気軽な旅

今回のニュー・オルリンズの旅は前から行ってみたいと思っていた Jazz & Heritage Festival を見物し、旬のザリガニを思う存分楽しむというお気楽観光旅行の計画。

5月の連休で飛行機もなかなか確保できないおり、旅行会社にお勤めの知り合いを通じて何とかチケットを入手。ちなみにこのお方、お昼のお仕事は旅行会社の要職におられるようですが、ニュー・オルリンズ・ジャズの世界ではアルバート式クラリネットの名手として知る人ぞ知るミュージシャン。サッチモ祭でそのすばらしい演奏に触れられた会員の皆さんも多いと思います。

飛行機もホテルも予約して一安心・・・と思ったところに3月11日の大地震。一時はどうしたものかと思ったのですが、そこへ降って湧いたように持ち上がったのが気仙沼の子供さんたちのバンド、「スウィング・ドルフィンズ」にニュー・オルリンズのティピティナ財団から義援金が送られるというお話。僕が滞在中の5月2日には同財団のイベントが開かれるとのこと。もともとは地元の子供たちに楽器をプレゼントするための定期的なチャリティー・イベントだそうですが、今回は日本の大震災を受けて東北の被災地支援に当ててくれるとのこと。

思いもよらぬ支援活動の本拠地 外山さんの紹介でイベント会場へ

出発前に外山さんから先方の財団にご連絡して頂き、このイベントに出席するという光栄に浴することとなりました。「日本ルイ・アームストロング協会勝手になりきり特命大使」の気分で日本時間の4月30日に成田を出発。シカゴを経由して一路ニュー・オルリンズに向かうはずが…。予定していた飛行機が遅れ、シカゴでの接続に間に合わない

のことで航空会社が用意してくれた代替便は一度西海岸のロスで降りて国内便に乗り換え、ダラスでさらに乗り換えてニュー・オルリンズに辿り着くという大冒険。

結局ダラス発の飛行機も遅れ、ルイ・アームストロング国際空港に到着したのは現地時間で4月30日の夜中12時

近く。ホテルにチェックインして部屋に荷物を放り込むと急いで出かけて、バーボン通りのフリッツェルズの演奏を20分ほど聴くことができました。翌日は路面電車で郊外の競馬場へ。今回の旅の本来の目的だったフェスティバルを楽しみつつ一日を過ごし、夕方にフレンチ・クォーターに戻ってプリザベーション・ホールでの演奏を楽しみました。

さて、いよいよティピティナ財団のイベントが開催される5月2日です。イベントは夜なので、昼間は前から行ってみたいと思っていたジョージ・ルイスのお墓参りへ。付近の治安は決してよくないと外山さんから伺っていたので、フレンチ・クォーターの観光案内所で聞いてみたところ、「グレッタナのビジターセンターにヴァージーというとても親切な係員がいるから訪ねてみる」とのお話。無料のフェリーでグレッタナに行つてこのヴァージーさんを訪ねると、本当に親切な方。彼女のおかげで無事ジョージのお墓に参ることができました。

バンドと屋台、お宝のお土産もズラリ お祭り気分漂うナポレオン通りを散策

一度ホテルへ戻り、日本からのお土産を携えていよいよティピティナのライブハウスへ。タクシーに乗ってはみたものの、アップタウンに向かうチューピトゥラス通りは結構な渋滞。目的地に到着してみると、この渋滞の原因はどうかやたらティピティナ財団のイベントが原因だったらしく…。ニュ



一・オルリンズ市警のパトカー1台と警察官2-3名でナポレオン通りを封鎖、車両通行止めにして開かれる大きなイベントでした。

イベントの開始時間17:00をだいぶ過ぎた頃に会場に到着したのですが、20:00までは普段ティピティナ財団が支援している地元ハイスクールのマーチング・バンドがパフォーマンス中(前のページに写真)。車両通行止めとなったナポレオン通りで演奏、それを取り囲むように埋め尽くすお客さんたちもとても楽しそう。こちらはこの季節、ずいぶん遅くまで明るいので時間の感覚が少し狂い気味。



スウィング・ドルフィンズから送られた大漁旗を手にする外山夫妻の写真を大事そうに抱えるキム・カットナーさん

交換。ロケも無事終了して表に出てみると、あたりはすっかり暗くなり、子供たちのバンドに代わって、店先の路上で大人たちのブラスバンドの演奏。セカンドライン・ビートに乗せたジャズ・ファンク的な演奏で、こちらもたくさんのお客さんに囲まれて大変な盛り上がり。

ロケを終えた NHK のクルーの方々が引き上げた後、キムさんに「日本から持ってきた写真をお渡ししたいのですけれど」と申し出ると、びっくりした彼女。「えー！？あなたがケンスケだったの？やだー、NHK の人かと思ってたわ！！」。あれ？ さっき名刺交換したはずなんだけどなあ…。ということで、ス



ナポレオン通りにはお土産物やちょっとしたお料理の屋台などが出て商店街のお祭



り的な楽しさがあります。通りの向かい側には大きめのテントが設営されていてオークション会場になっています。地元の人気フットボール・チーム、ニュー・オルリンズ・セインツのユニフォームやボール、ロック・ミュージシャンのブルース・スプ

リングスティーン氏のギターなどマニアなら垂涎のお宝がズラリ(写真上)。このオークションの収益金も財団の活動に使われるようです。テントのさらに奥はレセプション・スペースになっているようで、ドリンクや軽食がサービスされていました。

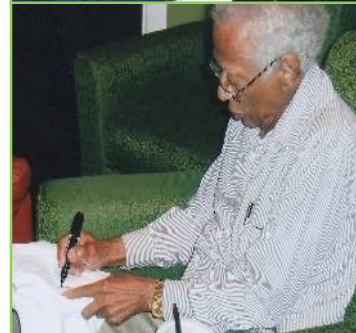
財団のキム・カットナーさんとも交歓 気仙沼の子供たちの写真も届ける

ひとしきりイベントを見回って、係員と思しき人達に担当者キム・カットナーさんは？と尋ねて回るも、いまだ会場に姿を現していない様子。そうするうちに6/7に放送されたジャーナリスト、鳥越俊太郎さんのドキュメンタリーでロケにやってきた NHK のスタッフの方々と合流。ライブハウスの屋内で行われたロケを見学させていただきました。NHK のスタッフの方々を通じて無事キムさんにもお会いして名刺

交換。ロケも無事終了して表に出てみると、あたりはすっかり暗くなり、子供たちのバンドに代わって、店先の路上で大人たちのブラスバンドの演奏。セカンドライン・ビートに乗せたジャズ・ファンク的な演奏で、こちらもたくさんのお客さんに囲まれて大変な盛り上がり。

Tシャツや色紙にメッセージ ミュージシャンサインも添えて

今度はこちらからのお願い。今日のイベントに出演しているミュージシャンの皆さんから気仙沼の子供さんたちに



サインとメッセージを頂いてきました(写真左)。お客さんの接待でお忙しい中、キムさんがミュージシャンの楽屋に案内して下さり、お持ちした写真を皆さんに回覧。食い入るように写真を見つめるミュージシャン。そして快く子供さんたちとわれわれ日本ルイ・アームストロング協会へのメッセージ

やサインをTシャツと色紙にしたためて下さいました。イベントでバタバタしているので、2-3日中に当店に出演する予定のミュージシャンからもサインとメッセージをもらってホ

テルに届けるからとの嬉しいお申し出も…。

イベントのショウ(写真右)は、司会者がいて仕切っているわけでもなく、淡々と進んでいく感じ。今演奏中のミュージシャンはどこの誰だかもさっぱり分からないのですが、お客さんたちは普通に楽しんでます。「パーティーにバンドがいるのは当たり前。どこの誰でも楽しければ関係ないさ！」的な感覚がニュー・オルリンズ風なのでしょうか。日本との文化の違いですね。

無事に大役を終えて22:00を過ぎた頃に僕もティピティナを失礼してフレンチ・クォーターに戻ってきました。そして、市内観光や夜のライブなどを楽しみつつ2日ほど過ごしたある日、「ホテルのフロントにお土産を届けておいたから」というキムさんからメッセージがメールで届いていました。取りに行ってみると財団のイベント Instruments a Comin' のTシャツがどっさり。こんなに大量に持ち帰って税関で見つかったらヤバイでしょというほどの量。しかも帰国間際で荷造りを始めたところだったのでとにかくスーツケースの隅々までぎゅうぎゅうに詰め込んで帰国しました。

Tシャツには Instruments a Comin' スウィング・ドルフィンズの名前も！

無事帰国してキムさんに帰国のご報告とお世話になったイベントでのお礼のメールをお送りしたところ、

「Instruments a Comin' のTシャツにはスウィング・ドルフィンズの名前も入れてあります。いろいろなサイズのTシャツを入れておきました。日本の

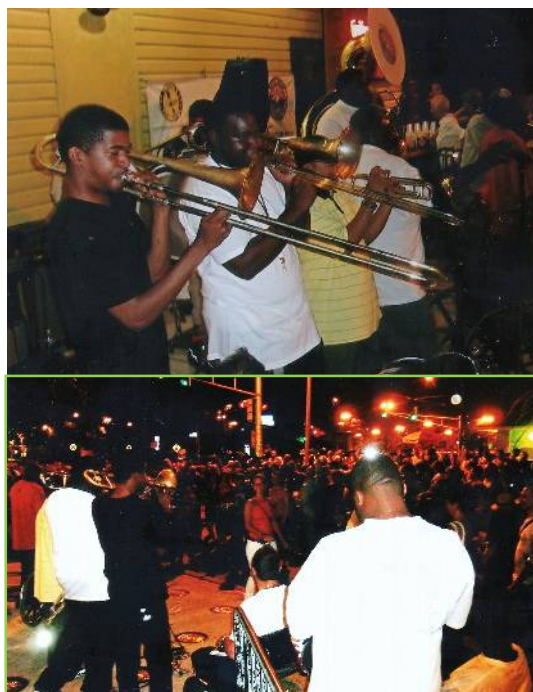


St. Rose Elementary
Stella Worley Middle School
Swing Dolphins Youth Jazz Band (Japan)
Thurgood Marshall High School
Walter L. Cohen High School

子供さんたちは

小柄なようなのでちょうどよいサイズのものがある

るとよいのですけれど」とのご返事。「！！？？？」。あわてて持ち帰ったTシャツを広げるとこれまでに同財団が支援した地元ニュー・オルリンズのスクールバンドに混じって確かに「Swing Dolphins Youth Jazz Band (Japan)」の文字が…(写真上)。こんなにどっさり届けてくれたのは、こ



の大切な記念品がバンドの子供さんたちみんなに行き渡るようにというティピティナ側の配慮だったのですね。帰国してからも感激の嬉しい旅でした。

地震の前から準備していた旅だったので全くの偶然ですが、タイムリーに協会のスタッフとして現地のイベントに出向くことができ、今回のご好意への感謝と日本ルイ・アームストロング協会の意気込みとを身をもって伝えることができたのではないかと思います。それにしても、これほど大きなイベントを独力で開催するほどの組織力を持った財団

が、日本の被災地支援の窓口として当協会に真っ先にコンタクトしてくれたのは嬉しい限りです。これまで地道に続けてきた「銃に代えて楽器を」の運動が現地で広く認知され、現地主導で同様の運動が広がりを見せていることを実際にこの目で確かめて来ることができたのも今回の旅の大きな収穫でした。

贈呈楽器一覧 (カッコ内は贈り主)

<気仙沼「スウィング・ドルフィンズ」へ>

トロンボーン×4、トランペット×4
アルトサックス×2、テナーサックス×2
バリトンサックス×2
(以上18点=ティピティナス財団)
*購入協力=(株)グローバル
キーボード、E・ギター×2、E・ベース
(以上4点=外山夫妻)
キーボード(池田まゆみさん)
KEYアンプ、KEYスタンド
(以上2点=佐々木孝夫さん)
譜面台×20(株)グローバル
E・ベース(磯田芳和さん)
ドラムセット、コルネット
(うつのみやジュニアジャズオーケストラ)
ギターアンプ(三森和夫さん)

<多賀城「ブライトキッズ」へ>

トロンボーン、トランペットソプラノサックス
アルトサックス、テナーサックス、KEYボード
KEYスタンド、E・ベース、ドラムセット
(以上すべてティピティナス財団)
*購入協力=管楽器は(株)グローバル
KEYボードとスタンドはローランド(株)
E・ベースは(株)神田商会
ドラムセットはパール楽器製造(株)

“ジャズの街うつつのみや”で復興支援 気仙沼にドラムセットと学用品を届ける



3-11東日本大震災の余震も続く4月2日、“ジャズのまち うつつのみや”(栃木県)で復興支援のチャリティーコンサートが開催された。

WJFとのご縁もあり、主催の要で「サッチモの旅」の同窓生でもある吉原郷之典さん(写真上)の招きで外山喜雄とデキシシーセインツがゲスト出演、詰めかけたファンから惜しめない拍手を浴びた。会場となったのは、JR宇都宮駅前の「ララスクエア」11F屋上に新設オープン、その初日を迎えたレンタルスペース「ララ・ステージ」。ミュージシャンにとっても、アマチュアバンド、音楽を愛するファンにとってもまさに“夢のサウンド空間”。そのオープニング・コンサート(2~3日)の予定が、「大震災があったので、急きよ“復興支援コンサート”に変えたのですよ」(吉原さん)。そう、東北の被災地からも多数、宇都宮市に避難してきている。「皆様に、このチャリティーの応援メッセージが届きますように…」と吉原さん。

地元のバンドはまさに総出演。2日は午後1時から“ジャズ・デー”。箏曲のグループ「十二単」に始まって「うつつのみやジュニアジャズオーケストラ」(写真上の上段)、午後3時から「外山喜雄とデキシシーセインツ」、「宇都宮市民ジャズオーケストラ」、「ハッピー・トーク」、吉原さん(tb)がリーダーの「スウィングハードオーケストラ」がファンを大いに魅了した。

翌3日は“ポップス・デー”。「サムシング」など11グループが熱演。



3. 11以来“失業状態”が続いているセインツが万難を排して出向くというので当然、WJFもバックアップ。会場に「がんばれ東北、がんばろう日本！」の看板を掲げたり、義援金を寄せてくれた方々に日の丸とトランペット・マーク入りの

“がんばろう！ワッペン”を作って差し上げたりと…これがなかなかの人気で550枚用意したのに、一日でほとんど品切れ。会場は腕や胸にこのワッペンを貼り付けたファンであふれた。

セインツの演奏曲の中でも、やはり被災地を励ますためにも、恵子さんのパンジョーをフィーチャーした「世界は日の出を待って

いる」や、「上を向いて歩こう」「この素晴らしき世界」が胸に染みしましたね。もちろん最後は「聖者の行進」が会場をめぐった(写真上の下段)。印象的だったのは、「宇都宮ジャズオーケストラ」の演奏中に、かなり強い余震があつて(新幹線も一時ストップ)、観客のみなさんも、ちょっぴり浮き足立っていましたが、演奏はしっかり続けられました。そのときの曲が、なんと「イン・ザ・ムード」！ 映画「グレン・ミラー物語」の中で、ドイツのロケット攻撃の最中でも演奏をやめなかった、あのシーンが鮮明に蘇ってきました。なかなか感動的な「復興支援チャリティーコンサート」ではありません。

吉原さんはその後、「うつつのみやジュニアジャズオーケストラ」の余ったドラムセットと学用品をたっぷり車に積んで、仙台に運んだ。もちろん送り先は「スウィング・ドルフィン」。



特別寄稿 モダン・ジャズ全盛期に トラッド・ジャズを聴かせた2軒のジャズ喫茶 「渋谷スイング」と「水道橋スイング」

——柳澤 安信さん(WJF 会員、白人コルネット奏者ビックス・パイダーベック研究家)

WJFの会員であり、コルネット奏者ビックス・パイダーベックの研究家でもある、柳澤安信様から特別寄稿「モダン・ジャズ全盛期にトラッド・ジャズを聴かせた2軒のジャズ喫茶」(渋谷スイングと水道橋スイング)の原稿をお預かりしています。今回68号で、ご紹介する予定でしたが、思わぬ大震災の余波のため、いわば「大震災特集」となってしまうし



た。お詫びするとともに、次号のお楽しみとして、皆様にお知らせ致します。

50年代から60年代にかけてジャズに親しんでこられた同世代の皆様にも、思い出を新たに大いに楽しんでいただける読み物です。渋谷スイングの店主、宮沢修造氏(写真左)、水道橋スイングの店主、柴田榮一氏(同右)の面影が鮮やかに蘇ってきます。

どうぞ、ご期待下さい。

Thanks America! Thanks New Orleans!
Thanks Satchmo!

日米の橋渡しをして下さった皆様に感謝!



ニューオリンズでジャズ修行をさせて頂き、良き時代のアメリカに大きな感謝の念を持つ



私達が、WJF会員の皆様、理事、スタッフの皆様、サッチモ祭等ご協力頂いている企業、また出演頂いているバンド並びにミュージシャン各位、多くのジャズファンの皆様に支えられて、こういう形で日米の交流のお役に立てて本当に嬉しく思っております。



1994年、ルイ・アームストロングの会を日本でやるということになりました。サッチモのファンクラブだけではもったいない…何か、象徴的な活動はないだろうか? そしてある夜、ふっと頭に浮かんだのが“銃に代えて楽器を!”のテーマでした。

銃を発砲して少年院に入ったサッチモ…そして、私達の住んだ時代のニューオリンズとすっかり変わって、街に溢れる銃と麻薬、そして敵意に満ちた目をした黒人の人々…。ニューオリンズ近郊の街バトンルージュでは日本人留学生、服部剛丈君の射殺事件…そしてコロンバイン高校の銃乱射事件もありました。

そのとき、思いました。僕らの世代、また、終戦の時、米軍とともに入ってきたジャズに救われた年上の世代の方々…。(66年前戦後の焼け野原に響いたジャズ…それは今回の大震災後、延々と広がる津波の被災地に子ども達のジャズが流れた光景にダブリます。)フルブライトなどでアメリカに学び日本のブレインとして国を発展させた世代、皿洗いかからアメリカンドリームを実現させた人々、トランジスター等の日本製品を片手に全米に製品を買ってもらい大成したソニーやトヨタやキャノン他多くの日本企業の皆様! みな、サンクス・アメリカの感覚を持っている…そのメッセージを込めた活動が、象徴としての“サッチモの孫達への楽器”のスタートでした。

サンクス・アメリカ、サンクス・ニューオリンズ、サンクス・サッチモ!! そのとき、漠然とこう思ったのを思い出します。そのうち、こうした日本のジャズファンのサンクス・アメリカのメッセージがアメリカ大統領の耳にも入ればいいなど。

そして17年目、皆様に応援して頂いたジャズの故郷と日本の交流は、日本中へ、さらに世界へと発信され、駐日アメリカ大使の耳まで伝わりました!!



森さん、日通さん…楽器を寄付して下さい下さった皆様方の善意がいま、こだましています!

WORLD JAZZ FOUNDATION

17年間に海を渡り“サッチモの孫達”に渡った楽器750点以上…この感謝の楽器の橋渡し、輸送に大きな力を下さったユナイテッド航空様、丸紅株式会社様、そして1998年以来13年間ご協力を頂いている日本通運株式会社様と、同社をご紹介頂いた森忠彦様(賛助会員)に心よりお礼を申し上げます。
(外山喜雄・恵子)

ご寄付と嬉しいお手紙

ありがとうございます!!

◆スインギン・ハード・オーケストラ(宇都宮)

鈴木啓一様 155,522円

同バンドのコンサートでの募金をご寄付下さいました。

◆早稲田大学ハイ・ソサエティ・オーケストラOBバンド

笠原克信様 11,727円

同OBバンドのファースト・ライブでの募金をご寄付。

◆鈴木鐵雄様(会員 松戸市) 10,000円

◆森田育弘様(会員 北区) 10,000円

◆安田知佳様(所沢市) トロンボーン

購入は2001年で、2007年まで使用していました。その後、新しい楽器を購入以来使っていません。少しでもお役に立てるとよいのですが…。昨日、楽器を発送いたしました。無事に届いているとよいのですが。あと、Yahooニュースで気仙沼でのジャズバンドの演奏会を見ました。音楽を通じてお互い支え合っていくことができるのは、素敵なことだなどしみじみ思いました。ほとんどお手伝い出来る事はないかもしれませんが、今後とも活動を応援しています。

募集中!

♪ジャズを愛する皆様

どうか会員になって下さい!!

また皆様のお知り合いの方々に

ぜひ、WJFへのご入会をお勧め下さい

=WJF年会費=

一般会員(General Membership) ¥6,000

学生会員(Student Membership) ¥3,000

賛助会員(Friends of Louis Armstrong) ¥12,000

■会費のお振込み先■

郵便振替 00110-4-415986

ワンダフルワールド・J・F

銀行振込 三菱東京UFJ銀行浦安駅前支店

普通: 5175119“ワンダフルワールド”

お問い合わせは:WJF事務局

TEL: 047-351-4464

Fax: 047-355-1004

Email:saints@js9.so-net.ne.jp

日本ルイ・アームストロング協会HP

検索エンジン:Yahoo,Googleで

ルイ・アームストロング

東日本大震災から約4カ月。この間、復興に向けて、ジャズの支援の輪がひろがりました▼今号は「ジャズ支援」特集です。大地震は外山会長の自宅がある浦安地区をも直撃、液状化により「我が家がいなくなる」したけれど、ニューオリンズからの義援金を楽器にして、外山夫妻を中心に気仙沼や多賀城の子供たちのバンドに届けられました▼WJFの支援活動は、国内ではNHKをはじめ沢山のメディアに、海外ではNBCニュースやニューオリンズの新聞で報道され、大きな反響をよびました。ジョン・ルース駐日米国大使のジャズ支援に関するツイッターも話題となりました▼ニューオリンズでの大震災支援イベントの渡辺研介さんの現地報告は12面です▼ジャズ支援はたくさんさんのジャズ仲間の力が結集して実現しました▼今年のサッチモ祭は7月18日に恵比寿で開催されます。ジャズ仲間のパワーを集めて、被災地の方々に元気を送りたいと思います。(山)

編集長から